一般社団法人東北測量設計協会

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはっと実態調査

（令和４年４月～令和５年３月）

一般社団法人東北測量設計協会では平成７年度に事故防止委員会を設置し、労働災害の防止を目的として活動を続けて参りました。平成２６年度からは、「労働災害アンケート調査」として年度毎に会員の皆様から広くアンケート調査をお願いしております。

今回の調査は92.3%の回収率となりました。会員の皆様には、ご協力いただき誠に有難うございました。これからも労働災害防止意識、会員相互の意識の共有化など、労働災害防止の観点から啓発をしていきたいと思います。

ご報告のありましたアンケート内容をみますと、幸い、今回の調査でも重大事故（死亡事故）の発生は無く、各会員の皆様の安全管理が徹底されていると思われます。

例年多い転倒・転落事故割合が増加傾向にありましたが、昨年減少したかと思いましたが、また増加傾向となり、本年は３件に増えてしまいました。災害業務の有無が大きく関与しているものとみられ、更なる対策が必要なことを示唆する結果となりました。

物損事故についても報告によると重大化しそうなものも散見されるので、さらなる事前のＫＹ活動などにより減少する必要があると思われます。

特にUAVの活用が有益な現場においても無理な飛行計画は避け、別の技術によっての3次元測量に切換える勇気も必要な事例も見られました。

ヒヤリ・ハットについても多くの報告をいただき、これらの事例を参考に事故減少への一助としていただければと思います。

技術委員会では、引き続きこれらの事例を会員の皆様で共有することによって事故ゼロを目指していきたいと考えております。今後も、軽微な事例でも、大きな事故を未然に防ぐための抑制効果として情報提供して参りますので今後もご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回のアンケート調査にご協力を賜りました会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計に協力いただいた委員の皆様はじめ事務局、他委員会の皆様に併せてお礼を申し上げます。

令和５年１１月　１日

一般社団法人東北測量設計協会

技術委員会委員長　海藤　剛

1. アンケート回収率

	第14回調査			第13回調査		
	令和4年4月～令和5年3月			令和3年4月～令和4年3月		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	10	8	80.0%	10	10	100.0%
岩手県	10	9	90.0%	10	10	100.0%
秋田県	9	8	88.9%	9	9	100.0%
宮城県	11	11	100.0%	10	10	100.0%
山形県	14	13	92.9%	14	14	100.0%
福島県	11	11	100.0%	11	11	100.0%
計	65	60	92.3%	64	64	100.0%

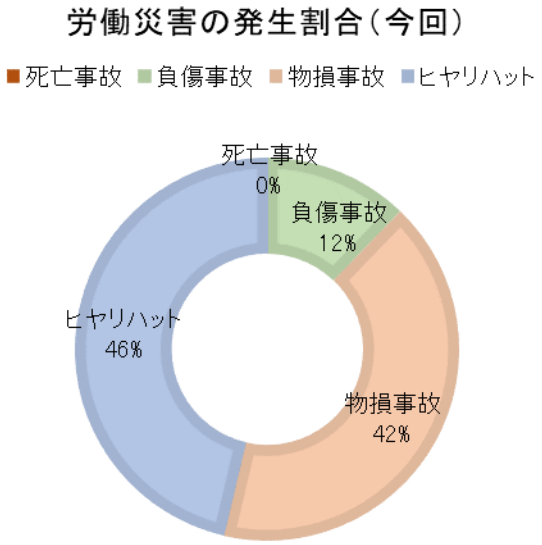
今調査は92.3%の回収率となりました。会員の皆様にはこれからもご協力をいただき、労働災害防止の啓発をしていきたいと考えております。継続的にアンケート調査をいたしますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。

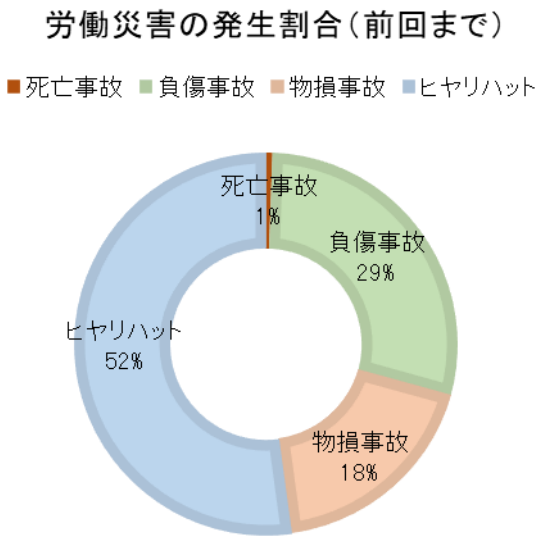
２．労働災害の発生件数

		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	57	64	30	72	34	58	315
	物損事故	23	22	11	97	38	12	203
	ヒヤリハット	32	80	58	67	56	278	571
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	0	1	0	1	2	1	5
	物損事故	2	2	1	3	4	5	17
	ヒヤリハット	0	3	2	2	7	5	19

※前回までとは昭和 50 年～令和 4 年 3 月までの累計調査件数

※今回とは令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月までの単年調査件数

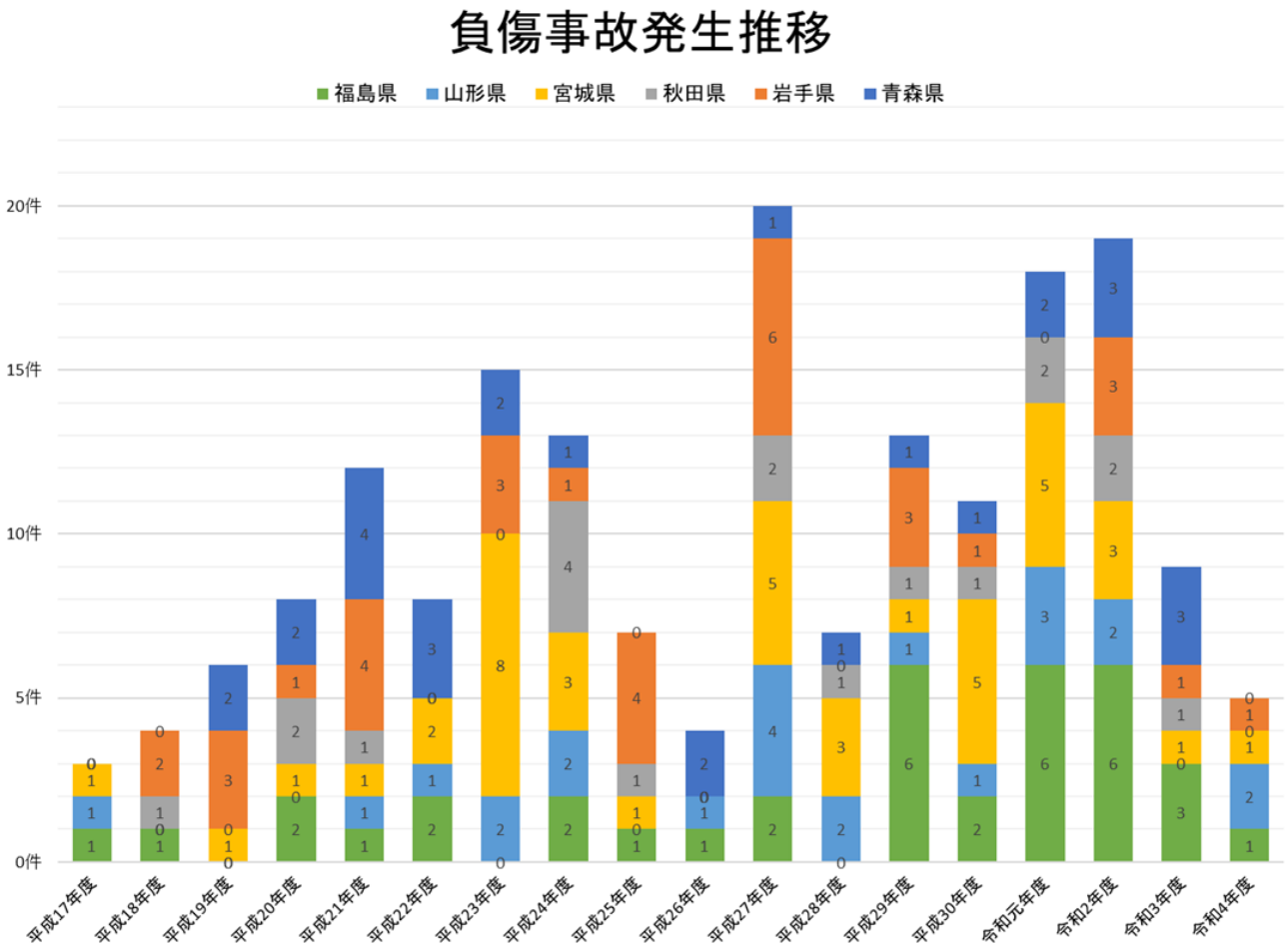




労働災害件数は、今回の調査でも死亡事故は発生しませんでした。ヒヤリハット、物損事故は増加し、負傷事故は 17%の減少となりました。

※前回までのデータは昭和 50 年～令和 4 年 3 月までの累計割合（%）です。

３．負傷事故（労働災害）発生推移

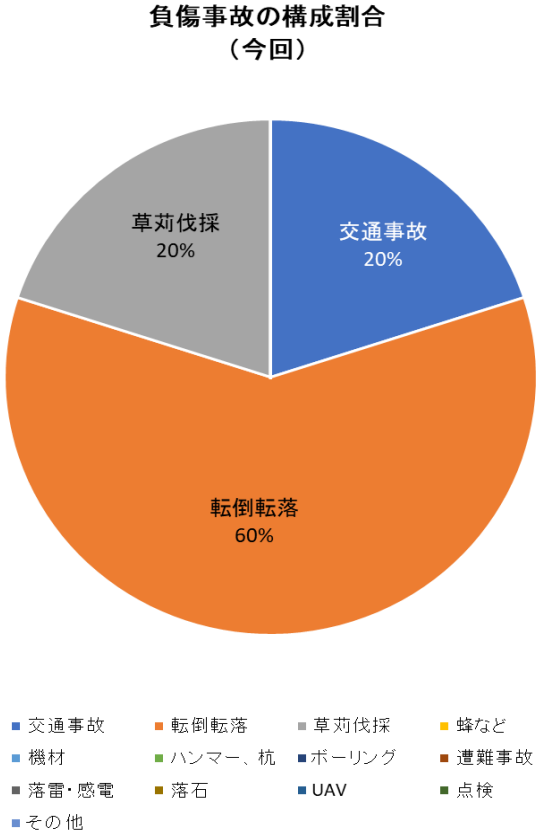


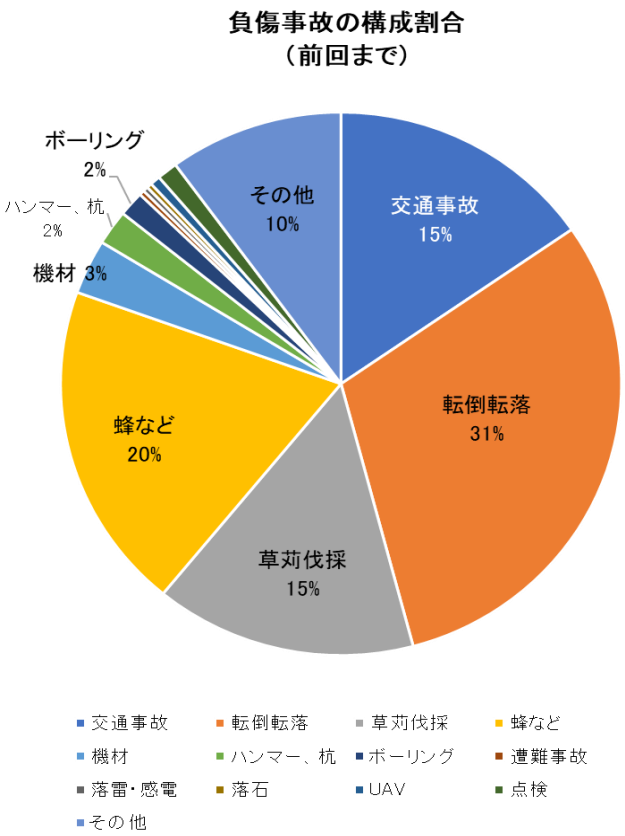
※負傷事故は前度と比べると９件から５件と大きく減少しました。

４．負傷事故構成年度別

	交通事故	転倒転落	草苅伐採	蜂など	機材	ハンマー杭	ボーリング	遭難事故	落雷感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成24年度	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
平成25年度	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
平成26年度	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	2	1	1	10	0	2	0	0	0	0	0	0	4	20
平成28年度	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	7
平成29年度	0	3	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	13
平成30年度	0	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
令和元年度	2	7	0	5	0	0	1	0	0	0	0	1	2	18
令和2年度	1	9	3	4	0	0	0	0	0	0	1	1	0	19
令和3年度	0	1	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	2	9
令和4年度	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5

今回の調査では、毎年報告件数の多かった蜂刺され件数が０件となりました。しかし、昨年多きく減少した転倒転落が微増となっています。今後の注意喚起と共に、引き続き会員皆様の労働災害防止の啓発活動をお願いいたします。



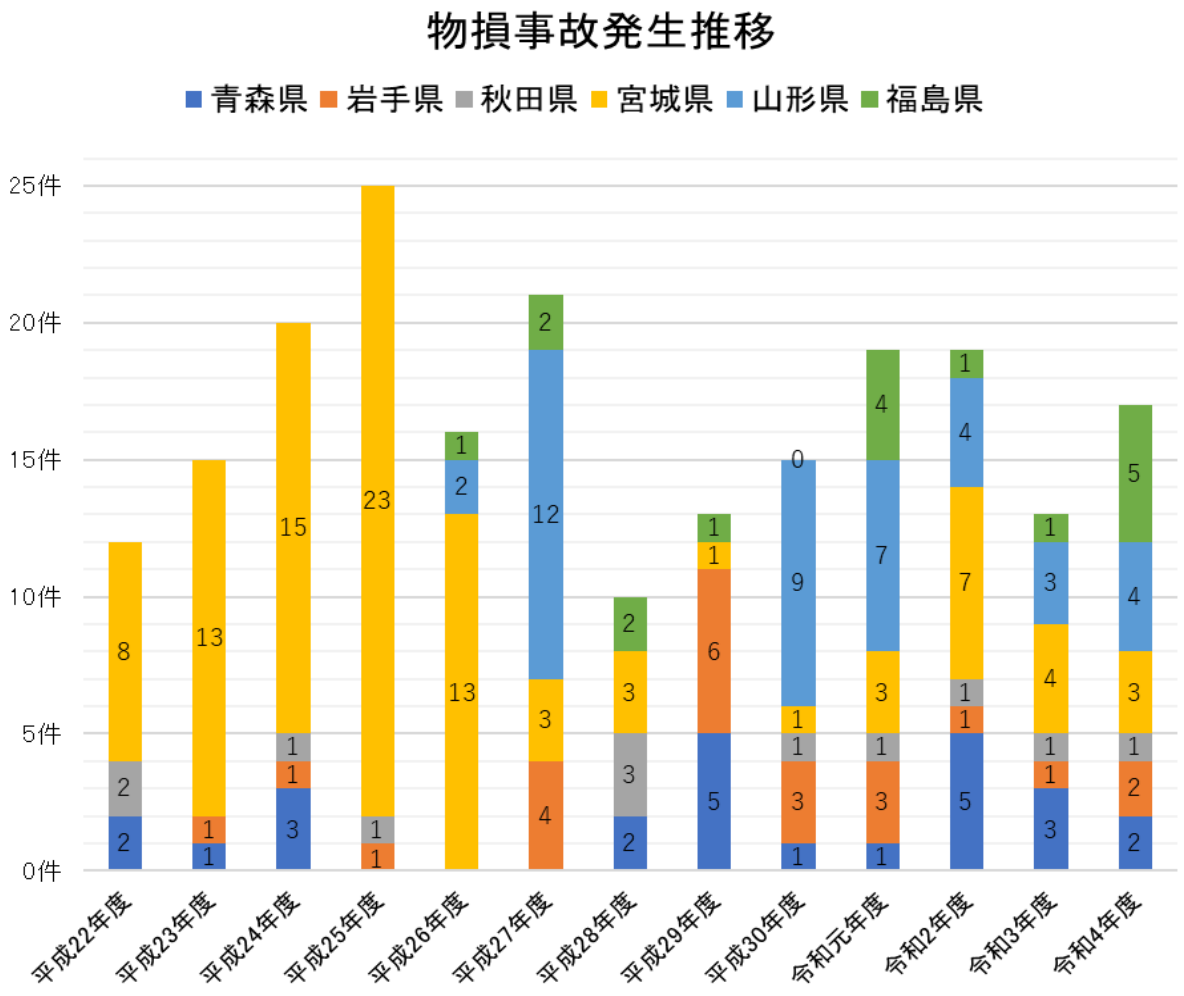


※前回は昭和50年～令和3年3月まで、今回は令和4年4月～令和5年3月までの累計割合（%）です。

５．負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
岩手県	2022年9月21日	転倒・転落事故	斜面を降りる際に、雨上がりで濡れた雑草で滑り、40cm程度下の草で隠れたU字側溝に足を打った。
宮城県	2022年6月22日	転倒・転落事故	ボーリング機材運搬中に足を滑らせ転倒。手をついた時に左手小指骨折。
山形県	2022年4月25日	立木伐採・草刈等による事故	倒れたススキを素手で取り除こうとし、ススキの葉で左手小指を切り出血が止まらない状態になった。
山形県	2022年12月8日	転倒・転落事故	作業の移動中、草の繁みから舗装道路に出る際、足に草が絡んで転倒し両膝を打撲した。
福島県	2022年7月21日	交通事故	現地調査の帰り道、道路を走行中、右折のため停車していた前方車両に追突してしまった。

６．物損事故発生推移



７．物損事故構成年度別

	交通事故	転倒転落	草苅伐採	蜂など	機材	ハンマー杭	ボーリング	遭難事故	落雷感電	落石	UAV	点検	その他	計
平成23年度	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
平成24年度	19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20
平成25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25
平成26年度	15	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
平成27年度	12	1	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0	2	21
平成28年度	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
平成29年度	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	13
平成30年度	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	15
令和元年度	9	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2	4	19
令和2年度	9	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0	6	19
令和3年度	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	13
令和4年度	13	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	17

物損事故は例年と変わらず交通事故となっており、うち社屋敷地内での事象が５件と目立ちました。
今後はＵＡＶの操縦ミスによる事故も増加すると思われます。意識を持って取り組みの実践をお願いいたします。

８．物損事故事例

県名	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2022年9月7日	UAV	UAVの飛行訓練・研修中に操作を誤り、下降スピードが早い状態で着陸させ、UAV機体が地面（アスファルト）でバウンドし、態勢を崩し、転倒・破損させた。
岩手県	2023年1月25日	交通事故	交差点で赤信号のため停車中の前方車両に追突した。
秋田県	2022年10月14日	交通事故	現場への移動で高速道路を走行中、ティッシュを取ろうとしたときにハンドル操作を誤り、中央分離帯のワイヤーロープにドアミラーが接触し破損した。
宮城県	2022年11月25日	交通事故	東北道を走行中に車線変更しようとした際、後方から接近してきた車両に接触した。
山形県	2022年4月27日	交通事故	客先の敷地でバックで駐車する際、玄関ポーチの柱に衝突した。
山形県	2022年5月26日	交通事故	渋滞で走行中スマートフォンを助手席から取ろうとして前方車両が停止したのに気づかず追突した。
山形県	2022年8月19日	機材	現場での作業中、トータルステーションを基準杭上に据え付ける際、三脚にトータルステーション本体を固定せずに三脚部を動かしたため本体を地面に落下し破損した。
山形県	2022年10月24日	UAV	発電所付近で送電線を避けUAVレーザーで測量を計画した。試験飛行を3回行い安全性を確認したと思われたが、レーザーを搭載後、送電線に機体を接触させＵＡＶを墜落させた。
福島県	2022年9月20日	交通事故	現場作業が終了し車を後退させた際、民家の塀へ衝突した。
福島県	2022年11月11日	交通事故	社内敷地から現場に向かう際、弊社駐車場にて資材を車に積みＵターンするためにバックした際、駐車している車に接触してしまった。
福島県	2023年2月20日	その他	機材を積み込みリヤハッチをしめた際、箱尺がきちんと奥まで積まれておらず、箱尺下辺の金具がリヤガラスに当たりガラスが割れ飛散した。

９．ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
平成22年度	1	0	0	0	0	0	1
平成23年度	1	0	0	0	0	0	1
平成24年度	1	2	3	2	0	2	10
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
平成26年度	1	1	3	6	5	5	21
平成27年度	0	2	5	6	2	7	22
平成28年度	5	13	8	7	5	6	44
平成29年度	3	11	6	4	1	4	29
平成30年度	2	6	4	8	3	3	26
令和元年度	4	11	4	13	6	3	41
令和2年度	0	10	5	3	10	6	34
令和3年度	0	4	10	2	4	14	34
令和4年度	0	3	2	2	7	5	19
県別合計	17	63	52	56	43	58	289

ヒヤリハットとは、事故に至る可能性のあった出来事の「発見」です。**今年の調査では19件の報告がありました。内容としては、前年に続き転倒転落につながる事例が10件と全体の半数以上を占め、足元の悪い中での事例が多く見られます。**また、近年夏の暑さが厳しく、軽い熱中症状の報告もありました。発症前のこまめな計画的休息及び水分補給が必要であると思われます。

いずれも、日頃のＫＹ活動で防ぐ事が出来る内容であることから、些細なヒヤリハットを見逃さずに、しっかりと防止する事で、重大な事故を未然に防ぐ事ができます。会員皆様の職場での周知徹底を引き続きよろしくお願いいたします。

１０.ヒヤリハット構成

	交通事故	転倒転落	草苅伐採	蜂など	機材	ハンマー杭	ボーリング	遭難事故	落雷感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成29年度	2	14	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	9	29
平成30年度	2	8	3	2	0	0	0	0	0	0	3	2	6	26
令和元年度	8	7	1	6	0	0	1	0	0	1	4	1	12	41
令和2年度	5	12	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	11	34
令和3年度	7	9	0	4	0	0	0	0	0	1	2	3	8	34
令和4年度	2	10	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	3	19

１１．ヒヤリハット報告事例

報告されたヒヤリハットの中から１０例を報告します。

所在	発生日	発生概要
山形県	2022年6月29日	**被災箇所の護岸調査中、護岸背後の吸出しによる空洞に足が入り、転倒しそうになった。**
		●状況及び原因 草で空洞がある事に気が付かず転倒しそうになった。
		●反省点 護岸背後は吸出しによる陥没が発生しているという認識が足りなかった。
		●再発防止策 近づく前に目視でよく確認する。除草で視界を確保するとともに、体の重心を後ろ側にして、ポール等で地盤状況を確認しながら進む。
秋田県	2022年7月13日	**橋梁点検作業中、作業員2人が乗ったバケットが河岸にぶつかりそうになった。**
		●状況及び原因 操作員・運転者間の連絡を行う機器の不具合が原因。操作員が大きな声で注意を促し回避することができた。
		●反省点 通信機器の確認不足。
		●再発防止策 今後、調査実施事前チェックリストに項目を追加し確認することとした。
岩手県	2022年8月6日	**本社玄関の未施錠**
		●状況及び原因 社屋の鍵のかけ忘れ。ブラインドは閉めていたが、最悪の場合、窃盗にあう可能性があった。
		●反省点 「急いで帰ろう」という気持ちから、先にブラインドを閉めてしまったため、施錠しただろうと思い込んでしまった。
		●再発防止策 第一に施錠、第二に両ドアの開閉作業で確認後、最後にブラインドを閉める。

所在	発生日	発生概要
山形県	2022年8月8日	**災害箇所調査中、斜面が崩壊しており滑落した。**
		●状況及び原因 災害調査中、雑草に覆われた箇所が崩壊しており、高さ約２ｍ滑落した。
		●反省点 移動箇所の地面の確認を怠った。
		●再発防止策 移動箇所の安全確認を行う。
福島県	2022年9月1日	**湿地を移動中、埋没していた側溝に足を取られ転倒しそうになった。**
		●状況及び原因 ケガもなく大事には至らなかった。
		●反省点 先行した者の足跡を追うなど、一歩ずつ確認して進むようにする。
		●再発防止策 足元が悪い状況の時は、転倒を予測し注意して歩く。
山形県	2022年9月16日	**支承木の伐採作業後に動悸・発汗で全身の倦怠感があった。**
		●状況及び原因 発生直後、日陰で安静にし症状が緩和後に十分な水分補給を行った。
		●反省点 残暑が厳しい状況の中、水分補給、適度な休憩が不足していた。
		●再発防止策 こまめに適度な水分補給と日蔭での休憩を実施する。
宮城県	2022年9月30日	**排水路脇の竹林を刈払いして境界測量を行っていたところ、足を滑らせて転び足を擦りむいた。また、刈った竹が喉に刺さりそうになった。**
		●状況及び原因 排水路には水がなく渡れる状態であったが三面張りの鋼板でできており、滑りやすい状況であった。突出していた竹を地面の高さまで低く刈り直した。
		●反省点 鋼板の排水路は錆びており、足を掛けても滑らないだろうという過信があった。
		●再発防止策 現場作業時は、作業員どうし声を掛け合い事故を防止する。

所在	発生日	発生概要
山形県	2022年10月20日	**孔内傾斜計用アルミガイド管を車両のルーフに積載し、確実に固定せず、道路を走行し、交通事故を起こしそうになった。**
		●状況及び原因 ルーフより50cm程度はみ出して積載していた。
		●反省点 はみ出しの許容長さが、車体の1/10であるという知識が足りなかった。
		●再発防止策 道路交通法の遵守とともに、長尺の荷物を運搬する際はハイエース等による運搬を行う。
福島県	2022年11月8日	**現場作業終了後、機材の片づけをしていた際、ぬかるんだ地面で足を滑らせ尻もちをついた。**
		●状況及び原因 ケガもなく大事には至らなかった。
		●反省点 機材を持って転倒すれば、ケガ及び機材の破損にもつながるので、足下には十分注意する。
		●再発防止策 足元が悪い状況の時は、転倒を予測し注意して歩く。
福島県	2023年2月2日	**横断測量の河床計測の際、川中の石には苔が張り付いており足を滑らせ転倒しそうになった。**
		●状況及び原因 ケガもなく大事には至らなかった。
		●反省点 現場の状況を確認してから作業に入る。また、足元に細心の注意を払う。
		●再発防止策 滑り止め付の胴長の使用を検討する。